

# 白神山地森林生態系保護地域を中心とした人の動態解明 —青森営林局管内を中心とした動態—

森林総合研究所東北支所 大石康彦

## 1 はじめに

白神山地は、ブナ原生林を主体とする自然生態系が広範囲に保たれていることから、平成2年に「森林生態系保護地域」に指定され、さらに平成5年には世界遺産(自然遺産)として登録された。これに伴い社会的関心が高まり、同地域周辺への来訪者も急増しているものとみられる。このような事象は、我が国にかつて例をみないものであり、同地域の自然生態系が社会に及ぼす効果・影響の解明・評価が求められるところである。同地域における来訪者の動態解明は、そのために欠くことのできないものであり、また、我が国で初めて登録された世界遺産を、将来にわたり適正に管理していくために必要な基礎情報を与えるものである。

## 2 研究の方法及び経過

森林生態系保護地域及びその周辺地域において来訪者が主に訪れる11か所(図-1、青森営林局管内:9か所、秋田営林局管内:2か所)を対象に、アンケート調査と、来訪者数のカウント調査を実施した。調査は夏季の休日として平成8年8月11日(日)、同平日として8月12日(月)、秋季の休日として10月20日(日)の計3日間、いずれも8:30~16:30の間、調査地点において帰途につく来訪者を対象に実施した。

アンケートは「森林・白神山地について:3項目」、「今回の訪問について:9項目」、「回答者自身について:5項目」の17項目で構成し、対面法により回答を求めた。

カウント調査では年齢等を問わず調査地点において下車するなど何らかの行為を行った来訪者の数を計測した。

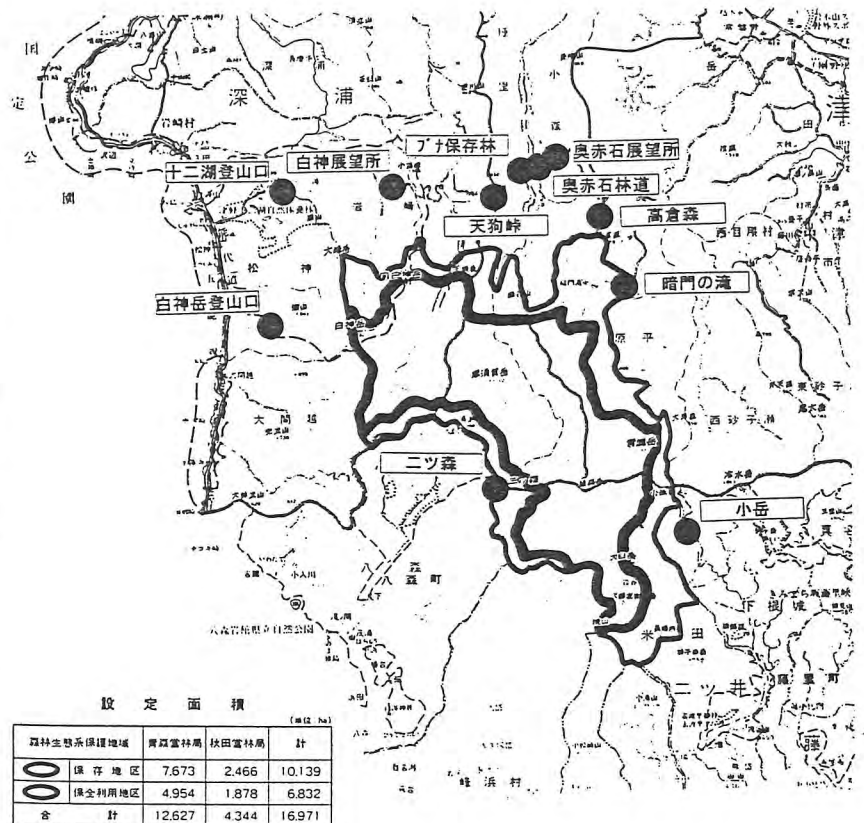


図-1 調査地点位置図

### 3 研究の結果

#### (1) 来訪者数

来訪者数は、全体で8月11日1,030人、8月12日487人、10月20日771人であった。この内、青森営林局管内11か所への来訪者は、8月11日933人(91%)、8月12日446人(92%)、10月20日725人(94%)であり、全体の90%強を占めた。箇所別では<暗門の滝入口>への来訪者が236~525人と最も多く、全体の48~54%を占めた。この他比較的来訪者が多かったのは、<奥赤石展望所>の90~105人(10~18%)、<白神展望所>の33~92人(5~12%)、<白神岳登山口>の48~61人(6~10%)であった(表-1)。

#### (2) アンケート調査結果

アンケート調査の有効回答数は、8月11日491部、8月12日274部、10月20日386部であった(表-1)。アンケートの回収率は、全来訪者数に対して48~56%となった。以下青森営林局管内において回答数が多く、かつ特徴がみられた<暗門の滝入口>及び<白神岳登山口>を中心に、アンケートの主要な項目について述べる。

#### ア. 森林・白神山地について

##### (ア) 森林を訪れた回数

調査時の来訪を含めてこの1年間に森林を訪れた回数を聞いた項目である。<暗門の滝入口>では、1回及び2~3回を合わせると、7~8割に達している。暗門の滝への来訪者は、その多くが普段あまり森林を訪れることのない者が大半を占めていることとなる。一方<白神岳登山口>では、1回あるいは2~3回の者は少数にとどまり、11回~20回及び20回以上の者が2~6割を占めた(図-2)。

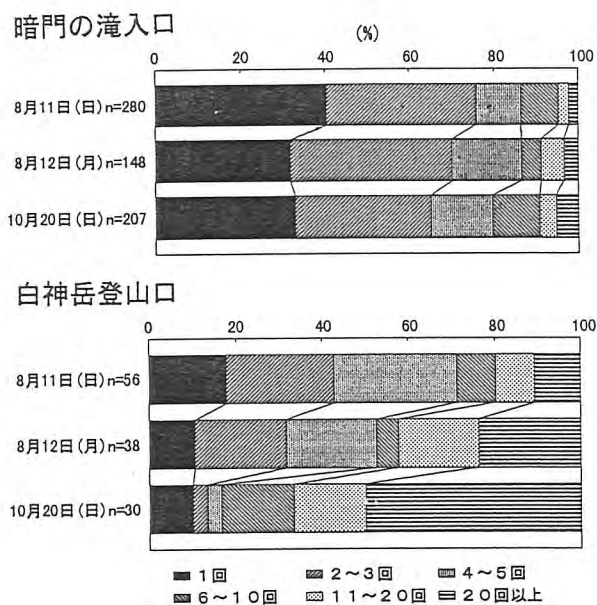
##### (イ) 白神山地を訪れた回数

調査時の来訪を含めてこれまでに白神山地を訪れた回数を聞いた項目である。<暗門の滝入口>では、ほぼ半数を1回(=初めて訪れ

表-1 アンケート調査・カウント調査結果

調査地点	8月11日(日)		8月12日(月)		10月20日(日)	
	アンケート有効回答	来訪者数	アンケート有効回答	来訪者数	アンケート有効回答	来訪者数
<青森局管内>						
①暗門の滝	284	525	151	236	210	420
②高倉森	1	46	2	5	0	0
③奥赤石展望所	58	105	30	90	35	100
④奥赤石林道	9	48	0	13	10	19
⑤ブナ保存林	0	48	7	8	3	10
⑥天狗峠	13	26	3	3	10	14
⑦白神展望所	18	52	21	33	32	92
⑧十二湖登山口	20	22	7	8	10	22
⑨白神岳登山口	56	61	38	50	30	48
青森局管内小計	459	933	259	446	340	725
<秋田局管内>						
⑩二ツ森	26	91	14	39	43	43
⑪小岳	6	6	1	2	3	3
秋田局管内小計	32	97	15	41	46	46
合計	491	1030	274	487	386	771

図-2 この1年間に森林へ行った回数



た者)が占めている。一方く白神岳登山口>では、1回の者が6~8割を占めた(図-3)。

イ. 今回の訪問について

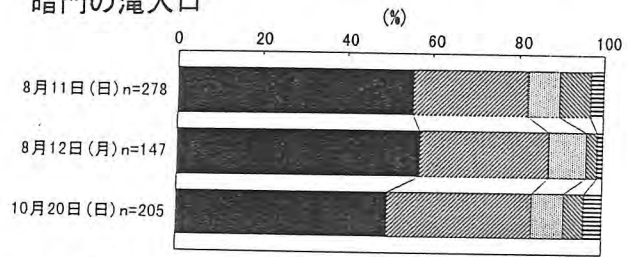
(ア) 来訪の日程

来訪の日程の予定について聞いた項目である。く暗門の滝入口>では、日帰り日程の者が多く、特に休日には7~9割を日帰り日程の者が占めた。一方く白神岳登山口>では、宿泊日程の者が多く6~8割を占めた(図-4)。

(イ) 調査地点以外への訪問

調査地点以外の箇所への訪問について聞いた項目である。調査地点以外の項目は「津軽沢歩道」、「くろくまの滝」、「自然観察館ハロー白神」、「十二湖・日本キャニオン」、「真瀬岳」、「ぶなっコランド」、「素波里湖」、「駒ヶ岳=藤駒岳・田苗代・岳岱・くるみ台・太良峡」の8カ所及び「その他」である。く暗門の滝入口>において他の箇所への訪問を回答した数が最も多くなったが、この他にく奥赤石展望所>及びく白神展望所>において他の箇所への訪問を回答した例が目立った。これらの箇所における回答には「十二湖・日本キャニオン」及び「くろくまの滝」が比較的多くみられた(表-2:8月11日の例)。

図-3 これまでに白神山地を訪れた回数  
暗門の滝入口



白神岳登山口

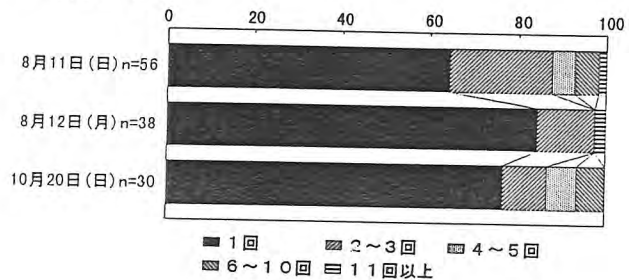
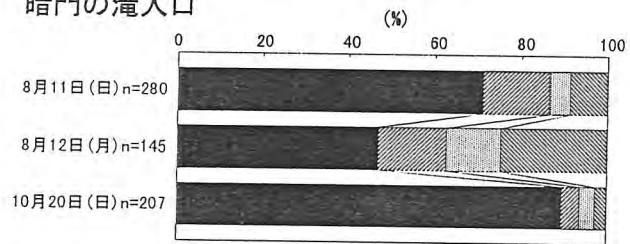


図-4 来訪の日程

暗門の滝入口



白神岳登山口

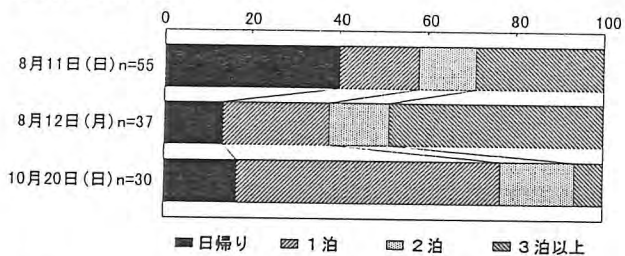


表-2 調査地点以外への訪問 (1996年8月11日)

訪問先	調査地点										合計	
	暗門の滝	高倉森	奥赤石展望所	奥赤石林道	ぶな保存林	天狗峠	白神展望所	十二湖登山口	白神岳登山口	二ツ森		小岳
暗門の滝	0	0	16	3	0	3	2	0	5	0	0	35
高倉森	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	8
津軽沢歩道	7	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	11
奥赤石展望所	3	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	13
奥赤石林道	12	0	3	0	0	0	1	0	2	0	0	24
ぶな保存林	0	0	0	3	0	0	1	0	0	0	0	17
くろくまの滝	41	0	18	2	0	3	6	2	3	0	1	74
ハロー白神	2	0	3	2	0	3	0	0	2	0	0	19
天狗峠	0	0	7	4	0	0	0	0	1	0	0	19
白神展望所	12	1	8	4	0	1	0	1	4	0	0	34
十二湖登山口	30	0	2	2	0	1	1	0	4	0	0	45
十二湖・日本キャニオン	70	0	21	3	0	10	4	13	14	1	0	137
白神岳登山口	8	0	3	1	0	2	0	8	0	0	0	23
真瀬岳	5	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	9
二ツ森	2	0	0	0	0	1	0	0	3	0	0	7
ぶなっコランド	4	0	2	0	0	1	0	0	4	0	0	20
小岳	2	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	3
素波里湖	4	0	4	0	0	0	0	0	1	0	0	13
藤駒岳・岳岱他	5	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	16
計	231	2	103	26	0	33	23	25	64	15	5	527
地域外	16	0	6	3	0	0	2	4	8	0	1	40
合計	247	2	109	29	0	33	25	29	72	15	6	567

(ウ)交通手段

使用した交通機関について聞いた項目である。＜暗門の滝入口＞、＜白神岳登山口＞のいずれにおいても自家用車の使用が過半を占めた。特徴的なのは、＜暗門の滝入口＞において一部観光バスの使用がみられたこと、＜白神岳登山口＞において一部鉄道の使用がみられたことである(図-5)。

(エ)来訪の目的

白神山地への来訪の目的について「白神山地(世界遺産)をみるため」、「ブナ林を歩くため」、「動植物・自然を観察するため」、「おいしい空気・静けさを求めて(森林浴)」、「写真撮影・絵をかくため」、「山菜・きのこ等を探しに」、「釣りをするため」、「登山をするため」、「観光旅行で」、「その他」から主なもの2つを選択させた項目である。＜暗門の滝入口＞では、「白神山地(世界遺産)をみるため」または「おいしい空気・静けさを求めて(森林浴)」が多くあげられ、次いで「ブナ林を歩くため」が多くあげられた。一方＜白神岳登山口＞では、やはり「白神山地(世界遺産)をみるため」及び「ブナ林を歩くため」が多くあげられたが、「登山をするため」も多くあげられた(表-3)。

(オ)来訪の感想

来訪の感想について「非常に満足」から「非常に不満足」まで5段階で聞いた項目である。＜暗門の滝入口＞、＜白神岳登山口＞のいずれも、「非常に満足」が半数前後に達しており、「やや満足」までを含めると、満足側の評価が8割を越え圧倒的多数を占めた(図-6)。

図-5 来訪の交通手段

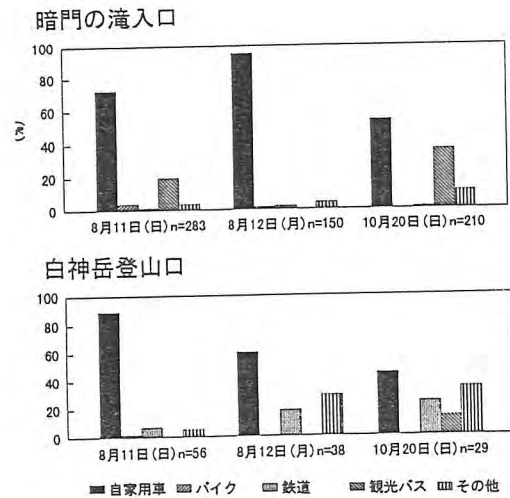


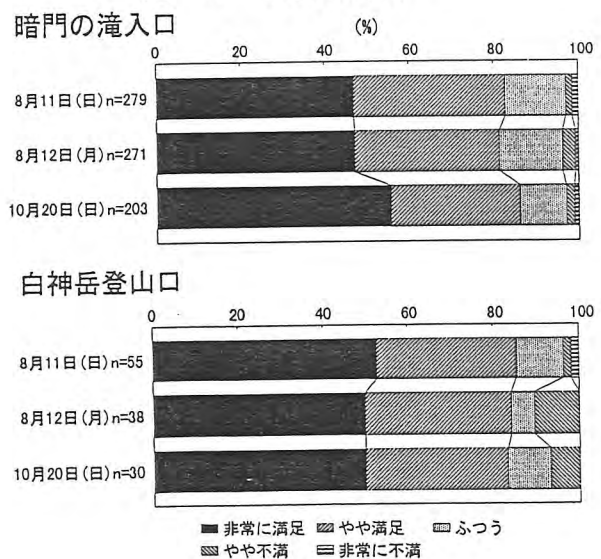
表-3 来訪の目的

暗門の滝入口	(%)		
	8月11日(日)n=280	8月12日(月)n=147	10月20日(日)n=209
白神山地	37.9	45.6	51.7
ブナ林	23.9	32.7	29.2
自然観察	10.4	15.6	23.9
森林浴	45.4	41.5	30.6
写真・絵	4.6	4.8	10.5
山菜・きのこ	0.4	0.7	0.0
釣り	4.3	2.0	0.0
登山	5.7	6.8	9.1
観光	16.1	24.5	14.4
その他	12.1	6.1	12.0

白神岳登山口	(%)		
	8月11日(日)n=56	8月12日(月)n=38	10月20日(日)n=30
白神山地	60.7	60.5	66.7
ブナ林	42.9	50.0	30.0
自然観察	5.4	2.6	13.3
森林浴	21.4	15.8	0.0
写真・絵	5.4	2.6	10.0
山菜・きのこ	0.0	0.0	0.0
釣り	0.0	0.0	0.0
登山	57.1	65.8	60.0
観光	5.4	5.3	3.3
その他	0.0	2.6	0.0

図-6 来訪の感想



(カ) 再来訪の希望

再び白神山地を訪れる希望について「ぜひ来たい」から「もう来たくない」まで4段階で聞いた項目である。<暗門の滝入口><白神岳登山口>のいずれにおいても「ぜひ来たい」が3~5割程度に達し、「機会があれば来たい」を加えると、再び訪れることを希望する者が9割以上を占めた(図-7)。

ウ. 回答者自身

(ア) 居住地

回答者の居住地について聞いた項目である。<暗門の滝入口>では、青森県居住者が過半を占めた。また夏季には関東地方居住者が一定の割合を占めたのに対して、秋季には東北地方居住者が大多数を占めた。一方<白神岳登山口>では、関東地方居住者が最も多く、東北6県でも過半を占めることはなかった(図-8)。

(イ) 居住環境

回答者の居住地の環境について「市街地」、「都市近郊」、「農村」、「沿岸」、「山間」の各項目から選択させた項目である。<暗門の滝入口>、<白神岳登山口>のいずれでも「市街地」が6~7割を占め、「都市近郊」を加えると8~9割を占めた(図-9)。

4 考察

調査結果から、白神山地への来訪者は全体の約半数が<暗門の滝>に集中し、1割程度は白神ラインを通じて十二湖方面へまわっていることがうかがわれた。また暗門の滝、十二湖、くろくまの滝は相互に重複して訪問する例が多いことが明らか

図-7 再来訪の希望

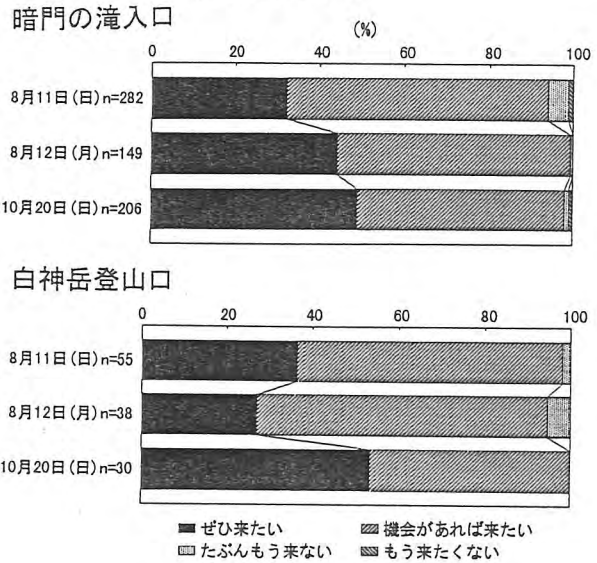


図-8 来訪者の居住地

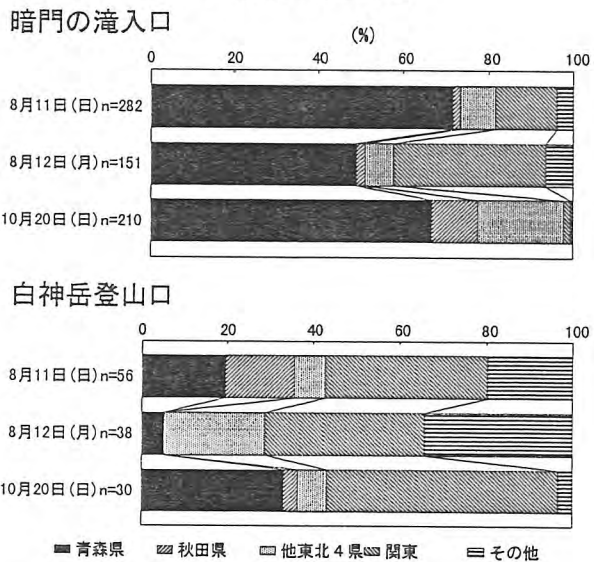
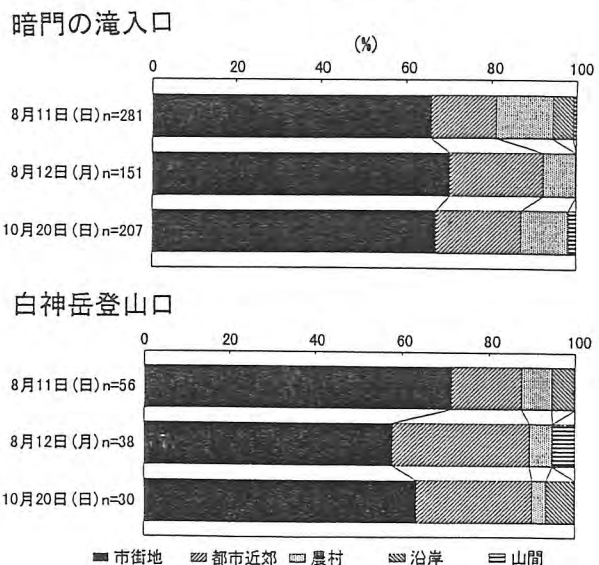


図-9 来訪者の居住環境



となった。これらは、いずれも白神山地が森林生態系保護地域指定や世界遺産登録を受ける以前からある程度知名度のあった所であり、そのような箇所が現在も来訪者の移動ルートの核になっていることを示すものである。

また、＜暗門の滝入口＞への来訪は、地元の市街地に住む、普段あまり森林を訪れることのない者が、自家用車を使用した日帰り日程で、白神山地(世界遺産)をみたり、おいしい空気・静けさをもとめたり、ブナ林を歩くために、初めて白神山地を訪れ、満足し、再び訪れることを希望している形に代表されることが明らかになった。さらに、＜白神岳登山口＞への来訪は、関東地方の市街地に住む、比較的頻繁に森林を訪れている者が、自家用車を使用した宿泊日程で、白神山地(世界遺産)をみたり、ブナ林を歩いたり、登山をするために、初めて白神山地を訪れ、満足し、再び訪れることを希望している形に代表されることが明らかになった。

一方で、来訪者の動態には少数とはいえ様々な形態も見られることがわかった。このことは、マスメディアを通じた様々な情報が、社会の多様な層の人々に様々な来訪の動機を与えていることを示唆するものである。今後、さらに調査を重ね、詳細に分析することによって、来訪者の動態が今後どのように変化するか、また、それをどのように誘導してゆくことができるかを明らかにすることができるものと考えられる。